

新居浜の

産業遺産物語

物語①

水郷の里

泉川の「鉄製水車」



現在の鉄製水車



稼働当時の鉄製水車

市内には工業都市として発展した新居浜の歴史を物語る産業遺産が数多く残されています。新しく始まるこのコーナーでは、これらの産業遺産をご紹介します。

水車は、大正12年、新居郡泉川村の東予製氷冷蔵株式会社の製氷工場の動力源として設置されました。国領川の豊富な伏流水（吉岡泉）を利用し、当時まだ電気が各家庭に供給されていなかった時代に、医療用や業務用などの氷を製造して地域に貢献しただけでなく、小学生の社会見学の間にもなっていたそうです。

その後、家庭用の冷蔵庫の普及などに伴い昭和59年に稼働を停止し、平成7年に市へ寄贈されました。現存する形式としては珍しい鉄製水車であることから、市の産業遺産として保存することとなり、平成9年度にマイントピア別子の対岸に移設されました。令和5年3月、旧端出場水力発電所の一般公開に伴い、故郷である泉川の当時の設置場所近くに再び移設され、水郷の里泉川の歴史を後世に引き継ぐことが期待されています。

別子銅山文化遺産課

☎ 65 - 1236

広告欄